

第三章第十項 鼠族驅除

- 乾物 商(燒狀等アル故乎)
- 菓子 商(煎餅屋、豆屋、麵麩屋)
- 綿 商(綿實ヲ食フガ爲メ乎)
- 豆腐 商
- 飲食店營業(殊ニ蕎麥屋)
- 八百屋
- 穀製造營業
- 飴製造營業
- 醬油製造營業
- 理髮店
- 又鼠族ノ棲息少ク或ハ殆ント存在セサル場所ハ
 - 石炭問屋 鍛冶職
 - ブリキ細工職 石職
 - 左官職 陶器製造業
 - 瓦製造業 金物商
 - 硝子商 石油問屋
 - 藥品製造業 材木問屋
 - 木具屋
 - 清酒貯藏庫及醱製造所

(E) 巴豆ノ喫食

巴豆ハ猛毒ニシテ人體ニ對スル生理的作用ノ劇烈ナルコトハ普ク醫家ノ知ル處ナレトモ博物志本草綱目、三才

圖繪其他和漢ノ諸書ニハ鼠ガ巴豆ヲ食スルトキハ體格非常ニ肥滿シ且ツ延年ノ効力アリト言ヘリ依テ鼠族カ果シテ之ヲ好ムモノナルヤ否ヤト其喫食後ノ狀況ヲ試驗セント欲シ試ミニ他ノ食物ヲ與ヘス巴豆五個ヲ鼠各頭ニ同時ニ與タルニ二十四時ヲ經過スルモ第一回第九號第二回第五號第十號ノ外之ヲ食セス即チ左ノ如シ

第一回試驗

| 鼠記號 | 體 | 量 | 二十四時後檢シタルニ | 鼠體ノ狀況 |
|-----|---|-----|------------|---------------|
| 第一號 | | 七〇 | 不 | 食 毫モ平素ノ健康ニ異ラス |
| 第二號 | | 八五 | 不 | 食 同 |
| 第三號 | | 一六〇 | 不 | 食 同 |
| 第四號 | | 一三〇 | 不 | 食 同 |
| 第五號 | | 九〇 | 不 | 食 同 |
| 第六號 | | 一二〇 | 不 | 食 同 |
| 第七號 | | 六五 | 不 | 食 同 |
| 第八號 | | 二七〇 | 不 | 食 同 |
| 第九號 | | 二三〇 | 一 | 食 同 |

第二回試驗

| 鼠記號 | 施行ノ時日 | 二十四時間後食否ノ狀況 | 鼠體ノ狀況 |
|-----|----------|----------------|-------------|
| 第一號 | 午前九時之ヲ入ル | 不食(其一個ノ度ヲ剝離セリ) | 毫モ平素ノ健康ニ異ラス |
| 第二號 | 同 | 不食 | 同 |
| 第三號 | 同 | 不食 | 同 |

第三章第十項 鼠族驅除

| 鼠記號 | 施行ノ時日 | 二十四時間後食否ノ狀況 | 鼠體ノ狀況 |
|-----|----------|----------------|-------------|
| 第四號 | 午前九時之ヲ入ル | 不食 | 臺モ平素ノ健康ニ異ラス |
| 第五號 | 同 | 二個ヲ食ス | 同 |
| 第六號 | 同 | 不食(其一個ノ皮ヲ剝離セリ) | 同 |
| 第七號 | 同 | 不食 | 同 |
| 第八號 | 同 | 不食 | 同 |
| 第九號 | 同 | 不食 | 同 |
| 第十號 | 同 | 二個ヲ食ス | 同 |

(F) 菟蕪試食試驗

右二回ノ試驗成績ニ依ル時ハ鼠族ハ巴豆ヲ嗜好セス又食物ニアラサルコトヲ自覺セルガ如シ而シテ其皮部ヲ剝離シタルモノト又其二個ヲ喫食シタル三鼠ノ如キハ全ク飢餓ニ陥ラントスルノ極此舉ニ出テタルモノナルヘシ

和漢三才圖繪ニ云「性畏菟蕪用生菟蕪水煉塞鼠穴則不レ出」ト鼠族ハ斯ノ如ク之ヲ嫌忌スルヤ否ヤ是レ之ヲ試ミタル所以ナリ

- 先ツ干燥菟蕪根ノ粗粉二〇、瓦ヲ煮テ之ニ燒米粉南京米ヲ炒リテ之ヲ臼ニテ挽キタルモノハ同量ヲ加エ之ヲ練リテ十個ニ分チ其一個ヲ各一頭ニ與ヘ(他ノ食物ヲ與ヘスシテ)二十四時間後ニ檢シタルニ
- 第一號 三分ノ一喫食
 - 第二號 二分ノ一喫食
 - 第三號 五分ノ一喫食
 - 第四號 十分ノ一喫食
 - 第五號 僅微喫食

- 第六號 三分ノ一喫食
- 第七號 十分ノ一喫食
- 第八號 全 食死ス

更ニ又新鮮ナル菟蕪根 Hydros me Rivieri Eng. 天南星科ニ就テ之ヲ試ミタリ其根ヲ約三分ノ厚サヲ有スル一寸平方ニ作リテ各鼠ノ箱ニ納レ二十七時間後ノ狀況ヲ見ルニ左ノ如シ

生菟蕪試食試驗

- 第一號 僅ニ喫食ス
- 第二號 僅ニ喫食ス
- 第三號 極メテ僅ニ喫食ス
- 第四號 十分ノ三以上喫食ス
- 第五號 僅ニ喫食ス
- 第六號 十分ノ一喫食ス
- 第七號 僅ニ喫食ス
- 第八號 不食
- 第九號 極メテ僅ニ喫食ス
- 第十號 僅ニ喫食ス
- 第十一號 不食

之ニ由テ見レハ菟蕪ノ生根ト乾燥粗粉トヲ問ハス鼠族カ好シテ食スルモノニハ非サルモ決シテ食セサルモノト謂フ可カラサルヤ明ナリ而シテ粗粉試驗ニ於ケル第八號鼠カ全食シテ死シタルノ理由ハ明ナラス

(G) 布苔及昆布試食試驗

鼠ハ「布苔(學名フノリ *Gloiopeltis Furcata* T. Ag.)ヲ嫌フカ故ニ之ヲ鼠ノ出入スル口ニ置ケハ必ス鼠ハ逃ク」

第三章第十項 鼠族驅除

トハ往々耳ニスル所ナリ依テ其實否ヲ試ミント欲シタルニ同品ハ海産植物ニシテ稍他ノ鼠ノ食物ニ類似スル點ナキニアラサルヲ以テ其方法ノ不當ナルニモ關ラス其喫食如何ヲ試ミタリ

| 鼠記號 | 第一回 | 第二回 |
|------|------|-----|
| 第一號 | 喫食 | 喫食 |
| 第二號 | 喫食 | 喫食 |
| 第三號 | 喫食 | 喫食 |
| 第四號 | 喫食 | 喫食 |
| 第五號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |
| 第六號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |
| 第七號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |
| 第八號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |
| 第九號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |
| 第十號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |
| 第十一號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |
| 第十二號 | 僅ニ喫食 | 喫食 |

(附記) 他ニ食物ヲ與ヘス

據之見レハ鼠ハ飢餓ニ及フモ「フノリ」ヲ食セサルモノナルヲ知ル尙此試驗後一週間ヲ經テ他ノ食物ニ混シテ試食セシメタリ
即チ「フノリ」五十瓦ヲ取り少量ノ水ヲ加ヘテ煮沸シ糊狀トナシ夾雜セル黑色纖維狀ノモノハ盡ク之ヲ除去シ之ニ蒸シタル甘藷ト蕎麥粉ノ同量ヲ加入シ煉合シテ棒狀トナシ十二個ニ分チ各鼠ニ與ヘ二十四時間後檢シタル

ニ左ノ如シ 但シ他ノ食物ハ毫モ與ヘス

- 第一號 喫食セス 健康常ニ異ナラス
- 第二號 喫食セス 健康常ニ異ナラス
- 第三號 全食 腹部膨大シテ戰慄シ不安ノ狀アリ
- 第四號 喫食セス 健康常ニ異ナラス
- 第五號 五分ノ一喫食ス 健康常ニ異ナラス
- 第六號 喫食セス 健康常ニ異ナラス
- 第七號 喫食セス 健康常ニ異ナラス
- 第八號 半分食ス 健康常ニ異ナラス
- 第九號 三分ノ一喫食ス 健康常ニ異ナラス
- 第十號 喫食セス 健康常ニ異ナラス
- 第十一號 喫食セス 健康常ニ異ナラス
- 第十二號 喫食セス 健康常ニ異ナラス

次ニ前記ノ「フノリ」液ト燒米粉末ノ各等分ヲ煉和シ團子トナシ之ヲ十頭ノ鼠ニ與フ其他ノ食物ヲ與ヘサルト二十四時間後ノ觀察ハ前ノ如シ

- 第一號 全食
- 第二號 全食
- 第三號 喫食セス
- 第四號 僅ニ喫食ノ痕跡アリ
- 第五號 喫食ノ痕跡アリ
- 第六號 喫食ノ痕跡アリ

第三章第十項 鼠族驅除

第三章第十項 鼠族驅除

- 第七號 喫食ノ痕跡アリ
- 第八號 喫食セス
- 第九號 事故アリ其成績不明ナリ
- 第十號 三分ノ二ヲ食ス

以上ノ結果ニ依リテ思考スルニ鼠ハ「フノリ」其儘ニ於テハ之ヲ食スルコトナキモ他ノ食物ニ調和シタル場合ニ於テハ之ヲ食スルヲ見レハ同品モ亦世人ノ謂フカ如ク必スシモ嫌疑品ニアラサルカ如シ況ンヤ之ヲ見テ逃避スルモノナランヤ

又昆布商ハ謂フ昆布ハ鼠族之ヲ喫食セスト此事實ヲ確メシカ爲メニ販賣上ノ昆布ヲ能ク水中ニ浸シ鹽分ヲ浸出シ全ク無鹽ノ状態トナシ之ヲ乾燥シテ二寸平方ニ切り各頭ニ與ヘ二十四時間後之ヲ檢シタリ

- 第一號 喫食セス
- 第二號 喫食セス
- 第三號 其十分ノ一ヲ食ス
- 第四號 喫食セス
- 第五號 喫食セス
- 第六號 喫食セシ痕跡アリ
- 第七號 喫食セス
- 第八號 喫食セス
- 第九號 喫食セス

之ニ依リテ見レハ昆布モ亦鼠族ノ食フ處ノモノニアラサルヤ明カナリ唯他ニ食物ナキカ爲メ止ムナク之ヲ喫食シタルナラン然レトモ決シテ嫌疑品ニハアラサルカ如シ尙後日ノ精査ヲ期セントス

(H) 蕃椒試食試驗

嘗テ小兒ニ對スル殺鼠劑誤食ノ危險ヲ防ク爲メ蕃椒ヲ配合シタルコトアリ是レ蕃椒ハ鼠ガ好テ之ヲ食スルノ說アリ果シテ然ラハ一舉兩得ノ配劑タレハナリ依テ之ヲ試ミンガ爲メ左ノ試驗ヲ行ヘリ

第一回試驗(他ニ食物ヲ與ヘス)

蕃椒末〇、五ト蕎麥粉及燒米トヲ以テ四、〇トナシタルモノ一個ツ、ヲ七頭ニ與ヘ二十四時間經過ノ後檢シタルニ

- 第一號 全食
- 第二號 十分ノ一食ス
- 第三號 四分ノ一食ス
- 第四號 十分ノ一食ス
- 第五號 三分ノ一食ス
- 第六號 殆ント全食 死ス
- 第七號 十分ノ一食ス

據之見レハ蕃椒ハ鼠ニ於テ比較的大量ヲ食スルヲ得ルモノ、如シ唯第六號鼠斃死ノ原因カ蕃椒ニアルヤ否ヤハ不明ナリ

第二回試驗(他ニ食麵麩ヲ與フ)

蕃椒末〇、五及ヒ蕎麥粉ヲ澱粉糊ヲ以テ一瓦弱ノ丸狀トナシ與ヘタリ其二十四時間後檢シタルニ

- 第一號 喫食シタル痕跡アリ
- 第二號 十分ノ一食ス
- 第三號 喫食セス
- 第四號 喫食セス
- 第五號 喫食セス
- 第三章第十項 鼠族驅除

第三章第十項 鼠族驅除

- 第六號 喫食シタル痕跡アリ
- 第七號 喫食セス
- 第八號 喫食セス
- 第九號 喫食セス

乃チ蕃椒ハ鼠ノ嗜好品ニハアラサルカ如シ是等ノ諸試験ハ何レモ三十五年ノ交最モ多忙ヲ極メタル際寸閑ヲ得テ之ヲ施行シタルモノニシテ其ノ方法ノ如キ幾多ノ欠點ヲ有シ何等斷定ヲ下スノ早計ナル素ヨリ知ル所ナレトモ單ニ其當時ヲ回顧スルノ資料トシテ之ヲ摘載シ以テ他日ノ精査ヲ俟ツ

(I) 石炭釜兒ト鼠

鼠カ石炭釜兒ヲ嫌惡スルノ説ハ往々耳ニスルニ所ニシテ驅鼠部ニ於ケル鼠飼養函ノ中隔板モ之ニコールタルヲ塗布シタルニ未タ穿孔セラレタルコトナシ而レトモ此中隔板ハ直立セル平板ナルヲ以テ之ヲ噬ムニ困難ナルノ點モアルナラン依テ試ミニ甲乙二個ノ飼養函ヲ取り側面ニアル小ナル出入口ヲ相對セシメテ抱合結束シ鼠ハ此甲乙ノ兩函中何レニモ其小口ヲ經テ出人シ得ル様ニナシ甲ニハ「コールタル」ヲ充分塗布シタル木板ヲ容レ且ツ食物モ甲ノミニ置キ乙函ハ全空虛トナシテ之ヲ放置シ其狀況ヲ觀察スルニ彼ハ主トシテ乙函ニ在ルモ食物ヲ探ルトキハ躊躇セシテ甲函中ニ入りテ食セリ

依テ試ミニ甲函中ニ糞ヲ入レ乙函ハ以前ノ如ク之ヲ空虛トナシタルニ彼ハ甲函中ニ「コールタル」板アルニモ拘ハラズ常ニ甲函中ニアリテ其糞ニ隠レタリ

此試験ハ其當時生鼠不足ノ爲メ漸ク二頭ノミニ就キ試験シタルモノナルモ二頭共其軌ヲ一ニセルヲ見レハ鼠ハ「コールタル」ヲ絕對的ニ嫌惡スルニアラスシテ同一條件ノ下ニ於テノミニ之ヲ避ケ自己ノ生活上必要ニ際シテハ敢テ之ヲ嫌惡シテ近ツカサルカ如キ事ナキモノナルヘシ

(J) 鼠族ノ亞鉛塀攀飛力試験

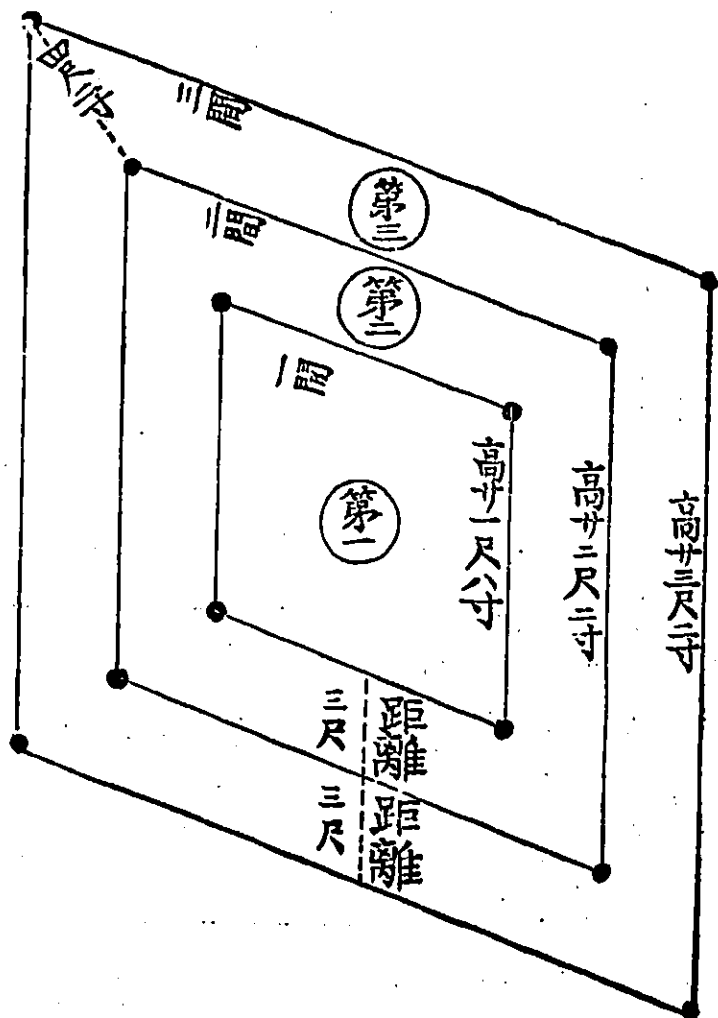
鼠族ハ能ク攀チ能ク走ルモノニシテ其飛躍ノ力モ亦強シ殊ニ泥鼠以外ノ者ニ於テハ竹又ハ鐵柱ニモ攀チ上ルノ

性アリ特ニ遮斷中亞鉛板ノ接合部反轉セルトキハ手足ヲ左右ニ張テ之ヲ攀チ上ルカ如キハ嘗テ實驗セシ所ナリ依テ鼠族カ亞鉛塀ヲ攀チ又ハ飛躍スル力ヲ試ミタルニ左ノ如シ

| 家鼠五頭ノ内 | 第一ノ攀飛力 | 第二ノ攀飛力 | 第三ノ攀飛力 | 備 | 考 |
|--------|-------------|-------------|--------------|---|--|
| 鼠ノ記號 | 高サ一尺四寸 | 高サ二尺二寸 | 高サ三丈二寸 | | 屢々二尺八寸許ノ所ニ達シ其局部ニ石灰乳ノ干固セルモノノ附着セシテ以テ之ニ就キ攀チ上ラント企テタルモ外部ヨリ之ヲ拂ヘリ |
| 第一號 | 直ニ超ヘ第二圍内ニ入ル | 能ク超ヘ第三圍内ニ入ル | 殆ント飛超ントスルヲ二回 | | |
| 第二號 | 第二圍内ニ入ル能ハス | | | | |
| 第三號 | 能ク超ヘ第二圍内ニ入ル | 能ク超ヘ第三圍内ニ入ル | 殆ント飛超ントスルヲ三回 | | |
| 第四號 | 同 | 第三圍内ニ入ル能ハス | | | |
| 第五號 | 同 | 同 | | | |

今試験ノ際ニ於ケル狀況ヲ摘記センニ飼養鼠族ヲ箱ヨリ第一圍内ニ出タヌヤ彼等ハ直ニ狹キ處即チ其隅ヘ集マレリ而シテ彼等ハ暫時ニシテ亞鉛塀ヲ乘リ超エントスル念盛ニシテ幾回カ之ニ飛付キ第一號鼠ハ瞬間時ニテ第一塀圍ヲ飛ヒ超エタリ其他ノ四頭ハ唯周邊ヲ巡リ常ニ其隅ニ於テ亞鉛塀ニ飛付キシカ終ニ第三號鼠モ亦第二塀圍ニ超エ入レリ此際恰モ第一號鼠ハ已ニ第二塀圍ヲ超エ第三塀圍ノ内ニ在ル時ナリシ而シテ尙第一塀圍ニ殘リ居ルモノ三頭ト第二塀圍ニ留マレルモノ一頭アルヲ以テ之レ等ニ對シ竹棒ヲ以テツ、キタルニ第一塀圍ニアルモノ、内第四號鼠第五號鼠ハ第二塀圍ニ入り第二塀圍ナル前着第三號鼠ノ一頭ハ第三塀圍ニ超エ入りタリ而シ

第三章第十項 鼠族驅除



テ第三塀圍内ノモノハ外塀ヲ超エントセシ二尺八寸位マテハ數回飛付キ更ニ附着セル泥土若クハ石灰乳ノ固結セルモノ或ハ釘穴ヲ手掛リトシ飛躍シタレトモ是ヲ打チ拂ヒタリ此小數ナル試験ノ示ス所ニ據レハ鼠ノ飛揚力ハ平滑ナル亞鉛板ヲ用ユルトキハ高さ三尺ヲ超ユルコトナキモノ、如シ然レトモ該試験ニ供セシ鼠ハ二週日以上ノ間箱中ニ飼養セラレ其身體ノ動作モ狹隘ニ慣レ從テ飛躍力モ幾分ノ萎縮ヲ來セシヤモ知ル可カラサルヲ以テ他ノ自由自在ニ生活スル鼠族ニ比スレハ或ハ其飛揚力ノ劣レルモノナキヲ保セス之ニ反シテ鼠族ハ總シテ横ニ空間ヲ飛フ力ハ強クシテ之ヲ試験スルニ四尺二寸ニ及ヘリ故ニ若シ鼠族ノ遁逃防禦ノ爲メトシテ亞鉛塀ヲ設クルニ際シテハ此横飛力ニ注目セサルヘカラス且又鼠族中巧ニ地ヲ堀ルモノアリ此ハ僅々タル日中二三時間ニ於テ爲ス處ヲ視察シタルニ過キササルヲ以テ未タ其力ヲ判知スル能ハサルモ彼等ノ動作ハ寧ロ夜中ニ於テ活潑ナルカ如キ故ニ一夜間ニ幾何ノ地ヲ堀リ得ル哉ハ他日ノ實驗ニ待タサルヘカラス

又鼠族ハ亞鉛塀ノ上面即チ亞鉛板ノ斷面タル刀及ノ如キ場所ヲ左右ノ手足ヲ以テ把持シ其二間或ハ三間ヲ巧ミニ渡リ行クヲ見タリ
之ヲ要スルニ遮斷ノ爲メ亞鉛板ヲ以テ塀ヲ設クルニ於テハ其高サモ必要ナレトモ亦横位ノ建物ニ對スル距離ハ極メテ必要ナリトス特ニ泥土ノ附着シ又ハ釘穴ノ多數ヲ有シ爲メニ粗造面トナレル亞鉛板ヲ避クルコトハ之ヲ等閑ニ付スヘキモノニアラス

(B) 鼠族水泳力試験

鼠族ノ水泳力ヲ識ルハ「ベスト」豫防上必要ノ事項ニ屬ス何トナレハ交通遮斷地域カ河溝ニ接セル際ニ於テ此處ニ亞鉛塀ヲ要スルヤ否ヤハ其鼠族ノ游泳遁逃スル巨離ノ長短ニ依テ決定スルモノナレハナリ依テ港務部ト合議シ海上ニ於テ之ヲ實驗セリ

該試験ノ場處ハ横濱港内第四區ニシテ海事上ノ測量ハ八戶港務官專ラ之ヲ擔任セリ

其方法ハ天氣晴朗波浪靜穩ノ日(五月十一日)右第四區ノ海面ニ於ケル好位置ヲ撰ミ茲ニ目標ヲ建テ(旗竿ヲ沈定セ)之ヲ基點トシ然ル後鼠族ヲ水中ニ放チ任意ノ方向ニ游泳セシメ其距離ヲ測量セリ而シテ之ヲ水中ニ放ツヤ直チニ時計ヲ以テ其游泳經過時間ヲ記シタリ

第一回ノ試験

試験ニ用ヒタル鼠ハ二百三十五瓦普通ヨリ大ナルモノノ重量ニシテ飼養中最モ健全ナルモノナリシ午後一時三十六分ニ於テ目標ノ下ニ放チタルニ暫ク水中ニ潜入シ凡ソ五六間先キニ浮キ出テ東方ニ泳ケリ十一分後ニハ其力稍疲勞ノ狀アリ十五分後ニハ殆ント衰弱ノ態ナリ二十五分ニ至テハ全ク游泳ヲ止メテ死シタルカ如シ依テ之ヲ掬ヒ上ケタリ後三十分間ヲ經テ蘇生セリ此最終點(掬ヒ上)ト起點トノ距離ヲ測量セシニ六百三十尺ナリトス

第二回ノ試験

第二回ハ甲乙ノ二種ヲ同時ニ試験セリ甲ハ百三十五瓦乙ハ約百二十五瓦ノ體量アル鼠ニシテ午後二時十六分目標ノ下ニ放チタリ

甲ハ十七分間後ニ於テ游泳ノ力ヲ失ヒ二十分後ニ死シタルカ如シ因テ之ヲ掬ヒ上ケタリ

乙ハ十七分間ニ於テモ尚ホ游泳シツ、アリシカ二十分後ニシテ衰弱シ暫ク體ヲ水面ニ托シ進マサリシカ復々泳キ出テ三十分後ニ於テ死シタルカ如シ因テ之ヲ掬ヒ上ケタル後チ船中ニ於テ蘇生セリ

此試驗ニ於テノ距離ハ甲ハ五百十尺ニシテ乙ハ四百九十尺ナリシ
此實驗ハ最初十三頭ノ鼠族ヲ試験スル等ナリシモ既ニ兩回ノ試験ニ於テ「ベスト」豫防上參考ニ資スルニ足ル

ヘキ游泳力ヲ識リ得タルヲ以テ其餘ヲ驗スルノ必要ナキモノト認メ之ヲ中止シタリ今其要ヲ摘録スレハ左ノ如シ

| | | | | |
|--------|----------|---------|------------|--|
| 第一回 | 游泳力稍弱リシ時 | 游泳力減セシ時 | 全ク游泳力ヲ失ヒシ時 | 備考 |
| 第二回(甲) | 十一分間後 | 十五分間後 | 二十五分間後 | 後三十分ヲ經テ蘇生ス |
| 第二回(乙) | 十分間後 | 十七分間後 | 二十分間後 | 後三十分ヲ經テ蘇生ス 抑ヒ上ケ後第一回ノ鼠ト同一器中ニ入 レシニ之レガ爲メニ咬殺セラレ 後ニ蘇生ス |

右ニ依リ算出シタル一分時ノ游泳距離ハ

| | 游泳時間 | 游泳距離 | 一分間ノ游泳速度 |
|------|------|-------|----------|
| 第一回 | 二十五分 | 六百三十尺 | 二十五尺、二 |
| 第二回甲 | 十分 | 五百九十尺 | 二十五尺、五 |
| 第二回乙 | 三十分 | 四百九十尺 | 十六尺、三 |

ニシテ彼等鼠族ハ一分間ニ十六尺乃至二十五尺ヲ游泳スル速力ナリ然レトモ起點ト終點トノ距離ハ直線ニ測量シタルモノニシテ實際鼠族カ游泳スルヤ或ハ右シ或ハ左シ又ハ後戻前進スル等不定ノ迂曲アルカ故ニ若シ此等ノ曲路ヲ加算スレハ恐クハ此一倍半ニハ達スルナラン

此試驗ハ鼠族ノ游泳力ニ於ケル一例ナレトモ若シ鼠族カ游泳ヲ企テ若クハ游泳中ニ於テ何等カノ目的物即チ岩礁沿岸等アランニハ其游泳力モ亦増加スルナラン何トナレハ該試驗ノ場所タル港内第四區ニシテ試驗船ノ外其附近ニハ何等ノ浮遊物ヲモ認メサル海面ニシテ此茫漠漫々タル水面ヲ何ノ目的ナク游泳セシメタルモノナレハ偶々試驗船ヲ目的トシ游泳力ヲ増スモ船ハ避ケテ走ルヲ以テ鼠族ハ遂ニ茫乎トシテ其目的ヲ失ヒ何ノ得ル處ナ

クシテ徒ニ體軀心神ヲ劇勞セシメタルノ觀ナキニアラス故ニ沿岸又ハ岩礁等其目的トスルモノアラハ其游泳時間ニ於テモ著シク之ヲ延長シ得ルナラン
該試驗ヲ施行シタル時ノ海務上計算ハ左ノ如シ

南東 輕風

橫波 零、二吋

潮 北西ノ方向 但シ漲潮ノ終期微弱

試驗場海面ノ深サ 三尋半乃至五尋半

氣溫 攝氏 二十二度(午後三時計測)

海水溫 十三度(同上)

(乙) 亞硫酸ノ魚類ニ及ホス毒性ニ就テ

干潮時河海ノ沿岸ニ逍遙スル鼠族驅除ノ目的ヲ以テ殺鼠劑ヲ配置スルコト、ナシタルハ前已ニ之ヲ述ヘタリ然ルニ不幸ニシテ是等殺鼠劑カ潮水中ニ混和シ橫濱港灣ノ魚類ヲ毒殺シ若クハ有毒魚類カ吾人ノ食膳ニ供セラルルニ至ルナキヲ保セストノ憂慮ヲ懷クモノアリ依テ試ミニ掲題ノ調査ニ着手シタリ

(一) 鹹水魚ニ就テハ之ヲ魚船ノ生槽ニ放ツモ亦生籠中ニ置クモ常ニ殺鼠劑ヲ振盪奪去セラレ其目的ヲ達スルニ難ク又之ヲ陸上ノ生槽ニ放養スルモ完全ナル潮水交換ノ裝置ナキ爲メ毒物試驗ニ先タツ健康視察期間ニ於テ悉ク斃死シ其目的ヲ達スルノ難キヲ認メタルト恐ラクハ淡水魚ト大差ナカルヘキヲ思ヒ遂ニ之ヲ中止シタリ

(二) 淡水魚ニ就テハ主トシテ鯉ヲ試用シタリ即チ當初十八尾(一尾ノ體重七〇、瓦、_{一八五、瓦ノモノ})ノ鯉魚ヲ取り二尾ツ、ヲ一組トナシ水壺ニ(五〇〇〇、瓦ノ水ヲ納レタルモノ)ニ入レ毒物ヲ加ヘスシテ放養スルコト一週間以テ其健康状態ヲ視察シ壯健ニシテ克ク毒物以外ノ原因ニ依テ斃死スル虞ナキヲ確メ而シテ之ニ順次亞硫酸製殺鼠劑ヲ加ヘ或ハ亦亞硫酸加里液(一%ノ亞硫酸ヲ含ム)ヲ注加シテ放養セリ

十八尾ノ内三尾ヲ試驗シタル其成績左ノ如シ

第三章第十項 鼠族驅除

| 日 數 | 魚 數 | 體 重 | 水 量 | 殺鼠劑 | 亞砒酸加里液 | 亞砒酸量 | 同 上 % | 生活狀態 | 備 考 |
|--|-------------|-------------|-------------------------------------|------------|------------|------------|------------|----------------------|--|
| 初五日 間 自六日 至十日 間 自十一日 至十五日 間 | 三 二 二 | 七〇乃至 八五瓦 | 各二頭ニ付キ 五〇〇、 同 上 同 上 同 上 | 二、〇 四、〇 | 一、〇 一、〇 | 〇、五 〇、一 | 〇、一 〇、二 | 異狀ナシ 異狀ナシ 異狀ナシ | 一尾躍出シテ死亡 其内臓ヨリ砒素ヲ檢出セ ス 内臓及肉中ヨリ砒素ヲ檢 出セス |

又他ノ三尾ヲ以テシタルニ

| 檢シタル日 | 魚 數 | 體 重 | 水 量 | 殺鼠劑 | 亞砒酸加里液 | 亞砒酸量 | 同 上 % | 生活狀態 | 備 考 |
|-----------|-----|--------------|----------------|-----|--------|------|-------|--------------|------------------------------|
| 初 一 日 | 三 | 七〇、乃 至八五瓦 | 各二頭ニ付キ 五〇〇、 | 一、〇 | 一、〇 | 〇、一 | 〇、二 | 異狀ナシ | 内臓ヨリ極微ノ砒 素ヲ檢出ス 砒素ヲ檢出セス |
| 第 三 日 目 | 一 | | 同 上 | | | | | 一尾衰弱翌 日死亡 | |
| 第 七 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 一尾衰弱翌 日死亡 | |
| 第 十 七 日 目 | 一 | | 同 上 | | | | | 日死亡 | |
| 第 二 十 日 目 | 一 | | 同 上 | | | | | 日死亡 | |

又更ニ二尾ヲ以テシタルニ

| 檢シタル日 | 魚 數 | 體 重 | 水 量 | 殺鼠劑 | 亞砒酸加里液 | 亞砒酸量 | 同 上 % | 生活狀態 | 備 考 |
|---------------------|-----|-------------|----------------|-----|--------|------|-------|------|---------|
| 初 一 日 | 二 | 七〇乃至 八五瓦 | 各二頭ニ付キ 五〇〇、 | 一、〇 | 五、〇 | 〇、〇 | 〇、二 | 異狀ナシ | 砒素ヲ檢出セス |
| 第 六 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 異狀ナシ | |
| 第 十 三 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 異狀ナシ | |
| 第 十 三 日 目 右檢シタル後 | 一 | | 同 上 | | | | | 一尾死亡 | |

尙ホ他ノ二尾ヲ以テシタルニ

| 檢シタル日 | 魚 數 | 體 重 | 水 量 | 殺鼠劑 | 亞砒酸加里液 | 亞砒酸量 | 同 上 % | 生活狀態 | 備 考 |
|-----------|-----|-------------|----------------|-----|--------|------|-------|------------|---------|
| 初 一 日 | 二 | 七〇乃至 八五瓦 | 各二頭ニ付キ 五〇〇、 | 一、〇 | 一、〇 | 〇、一 | 〇、二 | 異狀ナシ | 砒素ヲ檢出セス |
| 第 六 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 異狀ナシ | |
| 第 十 一 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 一尾死亡 | |
| 第 十 四 日 目 | 一 | | 同 上 | | | | | 衰弱翌 日死亡 | 砒素ヲ檢出セス |

尙ホ更ニ二尾ヲ以テシタルニ

| 檢シタル日 | 魚 數 | 體 重 | 水 量 | 殺鼠劑 | 亞砒酸加里液 | 亞砒酸量 | 同 上 % | 生活狀態 | 備 考 |
|-----------|-----|-------------|------|-----|--------|------|-------|-----------------------|---------------------------------|
| 初 一 日 | 三 | 七〇乃至 八五瓦 | 五〇〇、 | 一、〇 | 一、〇 | 〇、一五 | 〇、三 | 異狀ナシ | 内臓ヨリ極微ノ砒 素ヲ檢出ス |
| 第 二 日 目 | 三 | | 同 上 | | | | | 一尾衰弱翌日 死亡 | |
| 第 五 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 稍々衰弱セリ 白キ斑紋ヲ生 ス | |
| 第 十 一 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 死 | 一尾ハ内臓ヨリ極微ノ砒 素ヲ檢出シ一尾ハ檢出セ ス |
| 第 十 五 日 目 | 二 | | 同 上 | | | | | 死 | |

又三尾ヲ以テ第一日ヨリ第五日目マテ同様ノ試験ヲ施シ第六日目ニ至リ三個ニ分チ各別ニ之ヲ試ミタルニ

| 檢シタル日 | 魚 數 | 體 重 | 水 量 | 殺鼠劑 | 亞砒酸加里液 | 亞砒酸量 | 同 上 % | 生活狀態 | 備 考 |
|---------|-----|-------------|----------------|-----|--------|------|-------|------|-----|
| 初 一 日 | 三 | 七〇乃至 八五瓦 | 各二頭ニ付キ 五〇〇、 | 四、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 〇、二 | 異狀ナシ | |
| 第 五 日 目 | 三 | | 同 上 | | | | | 異狀ナシ | |

其一尾ニ對シテハ

第三章第十項 鼠族驅除

第三章第十項 鼠族驅除

四百十二

| 檢シタル日 | 魚數 | 體重 | 水 | 量 | 殺鼠劑 | 加亞 里液 C.C. | 酸亞 量砒 | 同上% | 生活狀態 | 備考 |
|-------|----|----|-------|---|-----|------------------|----------|------|------|----|
| 第六日目 | — | | 五〇〇〇、 | | — | — | 〇、一 | 〇、二% | 異狀ナシ | |
| 第十日目 | — | | 同上 | | — | — | — | 〇、二% | 衰弱 | |

又其一尾ニ對シテハ

| 檢シタル日 | 魚數 | 體重 | 水 | 量 | 殺鼠劑 | 加亞 里液 C.C. | 酸亞 量砒 | 同上% | 生活狀態 | 備考 |
|-------|----|----|-------|---|-----|------------------|----------|------|------|----|
| 第六日目 | — | | 五〇〇〇、 | | — | — | 〇、二 | 〇、四% | 異狀ナシ | |
| 第十日目 | — | | 同上 | | — | — | — | 〇、四% | 異狀ナシ | |

他ノ一尾ニ對シテハ

| 檢シタル日 | 魚數 | 體重 | 水 | 量 | 殺鼠劑 | 加亞 里液 C.C. | 酸亞 量砒 | 同上% | 生活狀態 | 備考 |
|-------|----|----|-------|---|-----|------------------|----------|------|------|------|
| 第六日目 | — | | 五〇〇〇、 | | — | — | 一五 | 〇、一五 | 同上% | 異狀ナシ |
| 第十日目 | — | | 同上 | | — | — | — | 〇、三% | 衰弱 | |

備考

〔砒素ノ存否檢定ハマルシユ氏法ニヨル
檢出セストアルハ砒素鏡ヲ生セサリシモノトス〕

右ノ試驗成績ニ依レハ亞砒酸加里液ヲ加ヘタル水中ニ飼養スルトキハ其時日ノ長短ニ依リ漸次中毒ニ陥リ遂ニ死亡シ其内臓及ヒ肉中ニハ例令砒素ヲ存スルコトアルモ極メテ微量ニシテマルシユ氏法ニ依リ極微ニ菲薄ナル砒素鏡ヲ生スルニ過キス故ニ萬一是等ノ魚類ガ食膳ニ上ルモ決シテ吾人ノ健康ヲ障害スヘキモノニハアラス殊ニ殺鼠劑其物ヲ加入セル水中ニ於テハ何レモ中毒病狀ヲ呈セス之ヲ試驗スルモ砒素ヲ檢シタル事ナカリシ右

ハ少數ノ實驗ニシテ其方法ノ如キモ未タ完全ナリト斷定スル能ハサルモ殺鼠劑カ魚類ニ及ホスヘキ作用ハ願慮スヘキモノニアラサルヘシ況ンヤ配置シタル殺鼠劑量ノ湖水ニ於ケル比例ハ實ニ大海ノ一滴ト云フモ不可ナケレハ港灣及ヒ河川ノ沿岸ニ配置シタル殺鼠劑ハ例令水中ニ混入スルモ魚類並ニ吾人ノ健康上決シテ願慮スルノ要ナキヲ知ルヘシ

第十一項 豫防注射

(A) 「ベスト」血清

本縣ニ於テ「ベスト」豫防ノ爲メ注射ヲ行ヒシハ第二回ノ流行時ヨリ始マル當時患者ノ家族等ニシテ最モ病毒ニ接近セシ隔離民ニ豫防的血清注射ヲ行ハントセシモ人民中往々危懼ノ念ヲ懷クモノアリ又其反應等ニヨリテ誤解ヲ招クコトナキヲ保セス爲メニ之レカ施行ヲ強ユヘキニアラサルヲ以テ隔離民一般ニ血清注射ノ概畧及「ベスト」豫防ニハ現時効力アリトシテ知ラレタル及フ限リノ方法ヲ盡スヲ至當トスル旨ヲ説諭シ彼等ノ希望ニヨリ之レガ注射ヲ行フコト、シ傍ラ人民ノ危懼ヲ解除センガ爲メ先ツ警部長參事官ヲ始メ收容部吏員ニ施シ其身體ニ害ナキヲ證シ然ル後南吉田町收容隔離民ニ

- 十一月十四日 二十三名
- 同 十六日 六十三名
- 同 二十八日 八名

施行セリ當時注射ハ胸部ヲ撰ヒ用量ハ成人ニ一〇立方仙迷十年乃至十五年五立方仙迷、十一年以下三立方仙迷ヲ注射セリ

反應

前記九十六名中多數ノモノハ注射後何等ノ障害ナカリシカ八日乃至十二日ヲ經過シテ注射局部又ハ全身ニ蕁麻

第三章第十一項 豫防注射

四百十三

第三章第十一項 豫防注射

四百十四

疹ヲ發現セルモノ或ハ膝關節、肩胛關節等ニ疼痛ヲ訴ヘシモノ等合計八名又體溫三十七度三分乃至三十八度五分ニ昇騰セシモノ三名アリシト雖モ二、三日ニシテ自然ニ消褪セリ

(B) ベスト豫防液

第三回流行ニ當リテ「ベスト」豫防接種ヲ行フニ至リタル經過ハ既ニ總説ニ於テ之レヲ述ヘタリ第一回接種ハ四十年六月五日扇町市立隔離所ニ收容セル隔離者ニ之ヲ行ヒ一般公衆ニ對シテハ同月二十二日西戸部町ニテ行ヒシモノヲ始トス

注射ノ施行

注射ノ施行ハ先ツ病毒ノ最モ濃厚ナル部及米商古俵商、紙屑、襪襪、古綿、古物商、船舶ニ出入スル人夫等ノ本病ト關係最モ深キモノヨリ始ムルコト、シ警察署ハ市ト協議シテ適當ナル場所及日割ヲ定メ巡查及衛生組合員ヲシテ各戸ニ就キテ勸誘セシメ注射ハ専ラ檢疫醫及市醫ヲシテ之レニ當ラシメ其注射時間ハ人民ノ便宜ヲ計リ晝間及夜間ニ之ヲ行ヒ「ベスト」患者ヲ發見シタル附近ノ住民ハ病者又ハ老幼者ヲ除クノ他殆ンド全部ノ接種ヲ行ヒタリ注射局部及用量等ハ總テ傳染病研究所ノ所定ニ從ヒ而シテ豫防液ノ菌種ハ本縣ニテ分離シタル神奈川種ヲ以テ製シタルモノニシテ傳染病研究所ヨリ下渡サレタルモノナリ接種施行當初ハ多少反應アリシ爲メ種々ノ不平誤解等アリシモ其後此等ノ反應ハ容易ニ消散スルヲ知リ漸次進行シ運送業等ノ多數人夫ヲ使役スルモノヨリ續々團隊ヲ造リテ注射ヲ乞ヒ來ルニ至レリ

七月ニ入りテ患者發生多ク豫防接種亦多方面ニ涉リ人夫其他晝間勞働スルモノ、爲メニ遅キハ夜間十時迄之レヲ執行シ彼等ノ歸宿スル時間ハ殆ント同一ナルヲ以テ夕刻ニハ一時ニ多數群集シ來リ喧囂ヲ極メ彼等ノ皮膚ハ汚垢堆積消毒ニ手數ヲ要シ且ツ接種場所多方面ナルヲ以テ檢疫醫ハ東奔西走終日之ニ從事セリ斯クテ漸次注射進行スルト共ニ患者發生熄ミシモ尙「ベスト」鼠ヲ出セシヲ以テ漸次全市ノ特別業體者及勞働者ニ及ホシ九月ニ入りテ尙殘餘ノ希望者ニ接種シ最早「ベスト」鼠及患者ヲ出サ、ルニ至リシヲ以テ止メタリ此等ノ經過及接種ヲ施行セシ町村等ハ左表ノ如シ

「ベスト」豫防接種表 其一

| 月別 | 遮斷區 | | 豫防區 | | 注意區 | | 普通區 | | 計 | | 患者同初發ヨリ | 發生鼠同初發ヨリ |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|---------|----------|
| | 人員 | 第一回 | 人員 | 第二回 | 人員 | 第二回 | 人員 | 第二回 | 人員 | 第二回 | | |
| 六月計 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 |
| 同 中旬 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 同 下旬 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 | 一二 |
| 七月計 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 | 九六 |
| 同 中旬 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 |
| 同 下旬 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 | 五六 |
| 八月計 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 | 三三 |
| 同 中旬 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 |
| 同 下旬 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 |
| 九月計 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 同 中旬 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 |
| 同 下旬 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 |
| 合計 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 | 三六 |

第三章第十一項 豫防注射

「ベスト」豫防接種表 其二

| 町村別 | 六月 | | | 七月 | | | 八月 | | | 九月 | | | 合計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | |
| 伊勢佐木 第一回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 伊勢佐木 第二回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 戸部 第一回 | | | | | | | | | | | | | 八 |
| 戸部 第二回 | | | | | | | | | | | | | 八 |
| 山手木町 第一回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 山手木町 第二回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 加賀町 第一回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 加賀町 第二回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 神奈川 第一回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 神奈川 第二回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 横濱水七 第一回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 横濱水七 第二回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 横須賀市 第一回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 横須賀市 第二回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 橋本保 第一回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 橋本保 第二回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 土ヶ谷町 第一回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 土ヶ谷町 第二回 | | | | | | | | | | | | | 二二 |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | 二二 |

| 町村別 | 六月 | | | 七月 | | | 八月 | | | 九月 | | | 合計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | |
| 子安村 第一回 | | | | | | | | | | | | | 三 |
| 子安村 第二回 | | | | | | | | | | | | | 三 |
| 久其岐 第一回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 久其岐 第二回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 屏風浦 第一回 | | | | | | | | | | | | | 三 |
| 屏風浦 第二回 | | | | | | | | | | | | | 三 |
| 大岡川 第一回 | | | | | | | | | | | | | 三 |
| 大岡川 第二回 | | | | | | | | | | | | | 三 |
| 都筑郡 第一回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 都筑郡 第二回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 四ヶ谷村 第一回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 四ヶ谷村 第二回 | | | | | | | | | | | | | 六 |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | 二二 |

備考 都筑郡西ヶ谷村ハ富士紡績株式會社分工場ニシテ同工場ノ事務員及職工ニ接種セシモノナリ

反應

當時接種多方面ニ涉リタルト續々患者ノ發生ニヨリ檢診鏡檢等疫醫ノ手ヲ要スルコト頗ル多ク多忙ヲ極メタルヲ以テ充分ナル調査ヲナシ得サリシモ一般ニ接種後局部ニ鈍痛アリ翌日局部少シク膨隆シ之レヲ壓スルニ鈍痛アリ又上肢ノ運動及仰臥ノ際ニ疼痛ヲ感シ全身違和四肢倦怠ヲ感シ時ニヨリテ三十七度二、三分乃至七、八分ノ體溫昇騰ヲ示シ第三日位ヨリ漸次局部ノ疼痛輕減約七日位ニシテ全ク消散ス

此等ハ一般ノ接種者ニ殆ント常ニ存在スルモノナレトモ個人ノ忍耐ノ度如何ニヨリ輕微ノモノト雖モ之ヲ熱發セルヤニ自覺シ大業ニ吹聴セシモノアリシヲ以テ再三檢温スルモ體溫ハ三十七度五分多キモ三十八度以下ニシテ著シキ發熱ヲ認メサルモノ多カリキ其中ニテ又體溫三十八度五分乃至三十九度稀レニ四十度ニ達シ數日間就床シタルモノアリ然レトモ著シキ他ノ症狀ヲ起サスシテ輕快セリ又接種後ニ至リ肋膜炎、麻疹、扁桃腺炎、胃

第三章第十一項 豫防注射

第三章第十一項 豫防注射

四百十八

痛等ヲ併發シタルモノアリシモ精檢スルニ接種ト直接關係ナクシテ偶然ニ合併シタルモノナルヲ知レリ
上記ノ偶發合併症ヲ除クノ他接種ニヨリ起リシ反應ハ特別ノ手當ヲ要セスシテ輕快シタリシモノナルモ左ノ數
名ハ注射後膿瘍ヲ生シ切開治療ヲ加ヘタリ然シテ此ノ爲メニ業ニ就ク能ハス衣食ニ窮シタルモノハ市ヨリ之ヲ
救助シタリ

第一號

仲 仕 業 勝 俣 長 平

二十二年

七月十日第一回注射ヲ受ケシニ翌日局部ニ疼痛アリシモ強テ起床セリト雖モ頭痛アリ食思不振ニテ到底業
ニ就ク能ハズ漸次局部ノ腫脹ヲ増シ來リシモ疼痛ハ其割合ニ著シカラスサレト彼等ハ勞働者ニシテ肩胛部
ニ疼痛腫起アルヲ以テ業ヲ探ル能ハス生計ニ窮シ警察署ニ救助ヲ乞ヒ來リシヲ以テ市役所ト交渉シ治療ニ
テ市醫ニ治療ヲ受ケシムルコト、シタリ

八月二十日現症 左肩胛部ニ桃實大ノ腫脹アリ皮膚ハ暗赤色ヲ呈シ壓スルニ疼痛アリ波動ヲ觸ル之ヲ切開
スルニ稀薄ナル黄色ノ膿汁ヲ洩ラセリ術後經過ハ佳良ニシテ九月五日頃創面全ク癒合セリ

仲 仕 業 村 上 要 明

二十四年

七月十日第一回接種ヲ受ケ翌日ヨリ局部稍腫脹セシニ止マリ二、三日休業シ食慾減退全身衰弱ヲ覺ヘシガ
七月十七日第二回接種ヲ受ケシニ惡寒發熱アリ食思減退シテ局部腫脹シ疼痛アリ漸次身體衰弱シ局部ノ腫
脹ハ増セシモ疼痛ハ比較的強カラズ業ヲ廢シテ起臥シ市醫ノ治療ヲ受クルニ至レリ

八月十八日現症 左肩胛間部ニ於テ橙實大ノ腫脹アリ皮膚赤色ヲ呈シ周圍ニ溼潤ナク著シク波動ヲ觸レ之
レニ約五仙迷ノ十字切開ヲ行ヒシニ稀薄ナル黄色ヲ帶ヒタル液ヲ洩セリ術後ノ經過ハ佳良ニシテ三回ノ糊
帶交換後善良ナル肉芽ヲ生シ創面縮少セシモ其後來院セス

第三號

山口與三兵衛

四十三年

七月二十八日第一回注射セシガ七月三十日ヨリ惡寒シ熱感アリテ少シク疼痛アリ二日間程就褥セシモ八月
一日ヨリ輕快シ八月三日第二回注射ヲ受ケ歸宅シ惡寒ヲ覺ヘシモ強テ露店ニ行キシニ中途ヨリ歸リ爾來全
身寒熱往來シ食思振ハス業ヲ廢シ就褥賣藥ニテ加療セリ其頃ヨリ頭部ノ水巻法ヲ行ヒタリシモ自覺セサル
位ナリキ、注射後二、三日ヲ經テ局部腫脹シ疼痛ヲ覺ヘ同月十八日頃市内開業醫ニ診ヲ乞ヒ切開ヲ受ケタ
リ其經過中時々惡寒アリテ病床ヲ離ル能ハス漸次羸瘦シタリト

八月二十五日市内醫師ニ就テ當時ノ現症ヲ聞クニ左肩胛間部ニ於テ肩胛下角ヨリ約二仙迷上方ニ鷲卵大ノ
「ツモール」アリ皮膚ニ異狀ナク周圍ニ溼潤ナクシテ波動ヲ觸知セス切開スルニ皮下ニ達スルモ膿ヲ見ス
筋膜ヲ破リシニ黄色濃厚ノ膿汁ヲ洩セリ當時無熱ニシテ術後ノ經過良ク腫脹減退創緣癒合セシガ九月一日
ニ至リテ惡寒發熱アリ尿ハ帶黄褐色ニシテ雲絮狀ノ沈澱アリ少量ノ蛋白ヲ證明セリト其後高熱稽留シ市醫
ノ診斷ニヨリテ「腸チブス」ト決定シ傳染病院ニ收後死亡セリ

（「腸チブス」ト豫防接種ト何等ノ關係ナキモ膿瘍發生後殆ント連續シテ發病シ家族ノ貧困ナルヲ以テ壽町
警察署長發起トナリ衛生關係者ヨリ吊慰金ヲ醜集シテ遺族ニ贈リタリ）

第四號 運送車力業 川 合 久 助 二十八年

七月二十一日第一回注射翌日ヨリ發熱就床シ惡寒ヲ覺ヘ三、四日ヲ經テ市内某醫師ノ診ヲ受ケ塗布藥ヲ塗
リシモ消散セス八月八日十全醫院ニテ診ヲ乞ヒタリ當時左肩胛間部ニ橙實大ニ腫脹シ皮膚ニ著シキ變化ナ
ク著シク波動ヲ觸レ壓スルニ疼痛ヲ訴フ熱候ナク他ニ何等ノ症狀ナカリキ切開スルニ黄色ノ膿ヲ洩セリ

第五號 左肩胛間部ニ一錢銅大ノ皮下膿瘍アリ切開ス排膿一週日ニテ治癒セリ 小清水初五郎

第六號 第三章第十一項 豫防注射 竹内兼太郎 四百十九

七月二日第二回注射ヲ受ケ局部腫脹疼痛アリシモ著シカラス七月三十一日ニ至リ右肩胛部ニ手掌大ノ腫脹アリシモ僅カニ皮膚面ヨリ隆起シ少シク赤色ヲ認メシモ著シカラス波動著シク之レヲ切開スルニ黄色ノ膿ヲ洩セリ約一箇月ニテ治癒ス

第七號

町田久一

四十五年

七月九日第一回接種同十六日第二回接種惡寒熱發三十九度二分ニ達シ三日計リ氷罽法ヲ行ヒ五日間就床シタリ其後何等ノ異狀ヲ覺ヘサリシカ八月中旬ヨリ局部疼痛アリ(第一回注射ノ部)四、五日ヲ經テ右肩胛間部ニ腫脹ヲ生セシモ一週間ニテ消散セシモ第二回ノ左肩胛間部ハ漸次腫脹シ九月四日自潰シテ二箇所ヨリ膿ヲ洩シ約二週ニテ治セリ

成績

接種ニヨリ局部ニ化膿ヲ來シタルモノハ上記ノ七名ニシテ總接種者ノ〇、〇一七八%ニ過キス又之ニヨリ或ハ二日又ハ三日業ヲ廢シ又ハ就床シタリト稱フルモノアリシモ當時多忙ニテ充分統計的ニ調査シ能ハサリシハ遺憾ナリキ然レトモ此等ノ噂アルモノニ就キ検査醫ヲシテ檢診セシメシニ彼等ノ熱發ト稱フルモノハ主トシテ四肢ノ倦怠感ニシテ檢温スルニ多クハ三十七度五分以下ニ留マリシモノ多ク其中ニ實際數日間高度熱發アリシモ這ハ甚タ少數ナリシ亦勞働者等ニハ往々局部ノ疼痛ノ爲メ一日乃至二日位其業ヲ休ミシモノアリシモ蓋シ此等ノ事ハ本接種ニハ免ル能ハサルヘキモノナラン而シテ四十年、四十二年ノ流行ニ於テ本接種者ハ一名モ「ペスト」ニ罹リシモノナカリキ

豫防接種ノ開始ト共ニ患者及「ペスト」鼠ハ發生熄ミシヲ以テ本接種ノ「ペスト」ノ豫防効力ニ就テハ何等ノ判定ヲ下シ能ハスト雖モ爰ニ注意ヲ要スルハ第一章「ペスト」鼠ト患者關係諸表ニ示スガ如ク翌四十一年ニ入リ再ビ三月以來「ペスト」鼠ヲ見六月八十二頭ニ達シ尙其後毎月數頭ヲ見サルナク十一月ニハ十三頭ノ多數ニ

達シ四十二年ニ入りテ尙之ヲ繼續セリ斯ク多數ノ「ペスト」鼠ヲ發生シタルニ抱ラス一名ノ患者ヲ發生セシテ翌四十二年ニ入りテ初メテ患者ヲ發見スルニ至リシコト是ナリ又明治四十年ニ於ケル豫防接種ハ上記ノ如ク四十年七月ニ始メ九月ニ終リシモノニシテ總員三萬餘人其内最モ「ペスト」病毒ト關係アル人夫、船夫、米商、古俵古繩等ヲ賣買スルモノ等ニハ殆ント之ヲ行ヒシヲ以テ四十一年ニハ「ペスト」鼠續發セルニ抱ラス患者發生ナカリシハ或ハ四十年ニ行ヒシ豫防接種ニヨリテ生セシ免疫性ノ爲メニ四十一年ハ發病ヲ免レ其免疫性が漸次減少シタル四十二年ノ「ペスト」發生ノ好機節ニ至リテ遂ニ患者ヲ發スルニ至リタルモノナランカ

今既往ニ遡リテ三十六年及四十二年ノ流行ニ於ケル「ペスト」鼠ト患者トノ關係ヲ對比シテ考フレハ四十一年ノ患者發生ナカリシハ上記ノ臆測ノ全ク妄說ニアラサルヲ想ハシムルモノナキニアラサルヘシ

然リト雖モ固ヨリ之レ臆想ニ過キスシテ其真因ハ明カナラス爰ニハ單ニ多數ノ豫防接種ヲ行ヒタルコト、其翌年「ペスト」鼠頻發セシニ抱ラス患者發生ナカリシコトヲ記載シテ後日ノ參考トセン

附記

本例ハ接種ニ際シテ特殊ノ注意ヲ要シ且ツ接種ノ無菌的處置ヲ必要トスル事實ヲ證明セルモノナルヲ以テ茲ニ不幸ナル異例ヲ採録シ後車ノ戒トナサントス本例ハ個人ノ接種セシモノナルヲ以テ除外例トシテ上記成績ニ加ヘス

明治四十年七月ニハ患者頻リニ發生シ接種ヲ希望スルモノ甚タ多ク特ニ賑町衛生組合ヨリノ申出ニ對シ豫防液ヲ分與シタルニ同組合ニテハ醫師ニ囑托シテ同組合員ニ接種セシガ其後同町方面ニハ膿瘍ヲ發セシモノ多キヲ聞キ検査醫ヲシテ調査セシメシニ左ノ報告ヲ得タリ

同町ニテ接種ヲ開始セシハ七月十一日ニシテ八月十一日迄三十日間ニ六百三十一名ニ左ノ如ク三回ニ分チテ接種セシモノナリ

第一回 六百三十一名

第二回 三百六十四名

第三章第十一項 豫防注射

前記ノ被術者中ニテ半日乃至二日位就褥シタルモノ約二十%アリシモ著シキ他ノ合併症ナク四、五日間就床シタルモノ數名ノミナリキ左レト局部ノ化膿セルモノハ別表ノ如ク比較的多カリキ然シテ化膿セルモノト雖モ化膿ニ因スル全身症狀ト認ムヘキモノ殆ントナク局所症狀モ比較的輕易ニシテ腫脹モ注射針刺入點ノ周圍ニ限局シ自潰シテ潰瘍ヲ造リ特別ノ處置ヲ加ヘス民間ノ膏藥療法ニヨリテ治シタルモノナリ二號患者ノ如キハ膏藥貼用ニヨリ分泌物吸收サレシテ創面ノ周圍ニ附着シ其刺戟ニヨリテ濕疹ヲ發シ適當ノ療法ヲ施サ、ルニヨリ著シク其近圍ニ蔓延シタリ化膿ヨリ治癒ニ至ル迄ノ日數ハ最短七日最長四十日ニテ延治療日數三百七十三日一個ノ化膿ノ治療日數平均一七、七日ナリ化膿ハ擴汎性ナラスシテ刺孔ノ周圍ニ限局シ早く自潰シタルハ注意スヘキ點ニシテ上文ニ記セシ壽町署方面ニ於ケル二名ノモノ及内田町ニ於ケルモノ、如キハ膿瘍大ニシテ橙實大ニ達シ一ヶ月以上ヲ經過スルモ尙自潰セスシテ切開排膿シタルニ反シテ賑町方面ノモノハ遲キモ注射後七日位ニシテ自ラ針刺部ヨリ膿様ノ液體ヲ漏ラシタルナリ斯ノ如ク早く膿汁ヲ排泄シタルガ爲メニ化膿前者ノ如ク深且大ナラスシテ全身及局所ノ症狀モ比較的輕易ナリシハ明カニシテ不幸中ノ幸ト云フヘキカ

何故ニ後者ハ化膿淺且小ニシテ刺入點ヨリ自潰セシヤハ一ノ研究スヘキ問題ナリ

一、注射針ノ消毒或ハ不充分ナラザリシカ

二、刺入多少淺キニ失シタルニ非ラサルカ

三、注射針ノ太カリシニ非ラサルカ

四、被術者ノ不攝生ノ爲メ起炎物ノ侵入セシカ又ハ體質ノ然ラシメシニ因スルカ

上記ノ事實ヨリ推定スルニ(一)二其主因ヲナシ(三)四之レヲ助長シタルニ非サルカ六號患者ノ如キ第一回注射ヨリ三日目ニ入浴中按摩セシ爲メニ起炎物ヲ擦入セシニ非サルナキヤ考ヘ得ラレサルニ非サルモ第二回注射ニハ著シキ誘因ナクシテ同一ノ人ニ化膿セシハ注意スヘキ點ナリ又十二名中ニテ一、二、七、八、號患者ハ注射時ニ絆創膏ヲ貼シタルニ拘ハラズ化膿ノ不幸ニ陷キレリ茲ニ奇ナル觀アルハ化膿シタルモノ十二名中五號ヲ除クノ

他ハ皆三十年以上ノ壯年男子ニシテ其他ノ婦人及小兒ハ一名モ化膿ヲ見サリシ事ナリ之レ小兒ハ一般ニ皮膚ノ抵抗力強ク日常ノ遊戯其他ニ於テモ外傷ヲ受クルコト多キモ化膿スルコト比較的少ナキヲ以テ見レハ皮膚ノ起炎毒ニ對スル抵抗力強大ナルノ到ス處ナリシナランカ

前記化膿者ハ殆ント酒客ニテ三十年以上ノモノハ平素アルコル飲用ノ爲メ皮膚ノ起炎物ニ對スル抵抗力減弱シテ斯ク化膿ノ不幸ニ陥リシモノナランカ

化膿者ハ肥滿シテ脂肪多キモノ多クシテ(二)ノ如ク刺入淺カリシモ亦其一因タラザリシニ非ラサルカ注射針太ケレハ刺入孔モ大ニシテ起炎物ノ分量的輸入モ比較的多少ク化膿ノ際ハ之レガ自潰若クハ排膿モ從テ容易ナラン之レ推定(三)ノ生セシ所以ナリ

同一ノ人ニシテ甲側ニ絆創膏ヲ貼シ乙側ニハ之レヲ用キザリシニ共ニ化膿セルヲ以テ見レハ起炎物ハ注射後外界ヨリ侵入シタルモノニアラストナスモ失當ノ言ニ非ラサルヘキカ

被術者ノ體質ガ化膿ノ素因ヲナセシハ爭フヘカラサル事實ニシテ小兒、婦人ニハ五號ノ例外ヲ除クノ他化膿ナク主トシテ酒客ニ多キニヨリテ明カナリ而シテ賑町方面ハ主トシテ商業ヲ營ミ化膿者ノ如キモ飲食店主又ハ雜商店ニシテ不潔ナル外界ニ勞働ニ從事セルモノニアラサル事ヲ附記ス

之レヲ要スルニ調査ニ着手シタル時ハ一名ヲ除クノ他ハ既ニ治癒シ其症狀經過等ハ專ラ被術者ノ口述ニヨリタルモノニシテ確實ナリト云フヘカラス化膿ノ眞因ノ如キモ

一、豫防液其モノ、爲メナリヤ

二、注射ノ際他ノ起炎物ノ侵入セシモノナルヤ

三、注射後ニ起炎毒ノ入りシモノナルヤ

ハ容易ニ判定シ難キモ他ノ多數ノ接種ノ成績及後表記載ノ症狀ヨリ推考スレハ其原因ノ(一)ナラストスルモ正鵠ヲ失セサル可ク恐ラク(二)(三)ノ兩者ニ原因セシモノナラントスルヲ至當トス

今此等ヲ一表トスレハ左ノ如シ

第三章第十一項 豫防注射

賑町二丁目「ベスト」豫防接種後化膿人名表

| 月日 | 注射回数 | 全身症状 | 局所症状 | 治癒日数 | 就瘡日数 | 瘡大サ | 番號 | 姓名 | 年齢 |
|--------|------|-------------|---|-------|------|-----|----|-------|-----|
| 七月十八日 | 一 | 輕 | 輕度ノ腫脹疼痛アリ數日チ經テ膿ヲ漏ラシテ生セラシメ膿ヲ漏ラスニ至レリ | 二日 | セス | 小豆大 | 一號 | 北島與造 | 四十二 |
| 七月十八日 | 二 | 發熱セリ | 局所ニ疼痛アリシモ腫脹著シカラス七月十四日ヨリ膿ヲ漏ラシ其周圍ニ濕疹ヲ生シ漿液ヲ分泌スルモ膿ヲ見ス | 尙ホ治セス | 三日 | 同上 | 二號 | 山口綱三郎 | 三十五 |
| 七月二十一日 | 一 | 惡寒熱約三日ニテ輕快 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 七日 | セス | 小豆大 | 三號 | 大塚清一 | 三十 |
| 七月二十八日 | 一 | 輕 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 七日 | セス | 同上 | 四號 | 久松喜代吉 | 三十 |
| 七月二十八日 | 二 | 輕 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 七月二十八日 | 一 | 輕 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 七月二十八日 | 三 | 惡寒熱發夜ヨリ倦怠頭痛 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 七月二十八日 | 二 | 輕 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 七月二十八日 | 三 | 惡寒熱發頭痛 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 七月二十八日 | 一 | 輕 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 七月二十八日 | 二 | 輕 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 七月二十八日 | 二 | 全身倦怠頭痛熱發三日 | 局所ニ疼痛アリ腫脹シ數日チ經テ膿ヲ漏ラサス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |

| 月日 | 注射回数 | 全身症状 | 局所症状 | 治癒日数 | 就瘡日数 | 瘡大サ | 番號 | 姓名 | 年齢 |
|-------|------|---------|-----------------------------|------|------|-----|-----|-------|-----|
| 七月十九日 | 一 | ナシ | 多少腫脹 | 七日 | セス | 小豆大 | 七號 | 夜光愛之助 | 四十 |
| 七月十九日 | 二 | 熱發頭痛一日間 | 疼痛ヲ感セサリシガ七日チ經テ膿ヲ漏ラセリ | 七日 | 一日 | 頭大指 | 八號 | 大野常吉 | 三十一 |
| 七月十九日 | 一 | 惡寒熱發 | 二錢銅大腫脹アリテ血液及膿ヲ漏セリ | 七日 | 三日 | 小豆大 | 九號 | 齋藤義三郎 | 四十六 |
| 七月十九日 | 二 | 同上 | 同上 | 七日 | 三日 | 小豆大 | 九號 | 同上 | 同上 |
| 七月十九日 | 一 | 全身倦怠熱感 | 二錢銅大ノ腫脹膿少シク出テタリ | 七日 | 三日 | 小豆大 | 十號 | 林睦太郎 | 四十四 |
| 七月十九日 | 一 | 惡寒熱發 | 局所腫脹疼痛アリ | 七日 | 四日 | 小豆大 | 十一號 | 土屋寅吉 | 三十一 |
| 七月十九日 | 二 | 同上 | 第一回ヨリ甚シカリキ | 七日 | 四日 | 小豆大 | 十一號 | 同上 | 同上 |
| 七月十九日 | 一 | 三日熱度 | 局所症状著シカラサリシガ五日ヨリ膿ヲ漏ラセリ | 七日 | セス | 頭大指 | 十二號 | 望月常七 | 二十七 |
| 七月十九日 | 二 | 同上 | 二三日間發赤腫脹シタリシガ五日頃ヨリ膿ヲ漏ラシニ至レリ | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |

化膿全數 二十二名、
 内第一回注射 十二名、
 第二回注射 八名、
 第三回注射 二名、
 注射人員 百二付、
 化膿者 一九名、

第十二項 瀛車并ニ船舶検査

明治三十二年阪神地方「ベスト」病毒ノ侵襲スル所トナルヤ病勢日ヲ逐フテ益々劇甚ノ兆ヲ呈シ彼レト運輸交通瀛車并ニ船舶検査

上至大ノ關係ヲ有スル本縣ハ之レガ豫防手段トシテ傳染病豫防法第十八條ニヨリ同年十一月十七日同十八日告示第六十九號及第七十號ヲ發シ縣下山北、大船、兩停車驛ニ瀛車検査ヲ橫濱、浦賀兩港ニ船舶検査ヲ開始シ以テ病毒ノ侵入ヲ警戒セシガ三十三年ニ至リ該地方ノ病勢一時終熄セルニヨリ同年二月一日告示第二十四號ヲ發シテ瀛車及船舶ノ検査ヲ廢止セリ然ルニ同年四月ニ至リ大阪市ニ於テ第二期「ペスト」病流行スルニ及ンテ更ニ同月十六日告示第五號ヲ發シ水上警察署、横須賀警察署及浦賀警察分署ニ命シテ該地方ヲ發シ若ハ經由シ來港セル船舶ニ對シ特ニ本病患者ノ有無ヲ監査セシム而シテ同年十二月和歌山縣下ニ於テ本病患者發生スルニ及ンテハ告示第二百十三號ヲ以テ前記ノ外更ニ浦賀、小田原、真鶴等ノ各港ニ於テモ來港諸船舶ニ對シテ嚴密ナル検査法ヲ施行セシメシガ翌三十四年五月二十五日ニ至リ告示第二百十三號ヲ以テ前記各港ノ検査ヲ廢止セリ上記ノ如ク本縣ハ明治三十二年以降屢々瀛車及船舶検査ヲ施行セント雖トモ去ル三十二年ヨリ三十四年ニ至ル期間ハ主トシテ阪神地方ニ於ケル「ペスト」病毒ノ侵入ヲ防遏スルノ手段ニ過キサリシガ三十五年ニ實行セシ瀛車及船舶ノ検査ハ少シク其趣ヲ異ニセリ即チ其検査開始ノ當初ハ固ヨリ虎列刺病豫防ノ爲メニ外ナラサリシモ中途横濱市ニ於テ「ペスト」患者發生スルニ及ンテ一面コレガ病毒ノ侵襲ヲ防クト同時ニ本縣ヨリ「ペスト」患者ノ他ニ出ルコトヲ警戒セルモノナリ

瀛車検査ハ前述ノ如ク其必要ニ應シ屢々開廢シ從テ其方法モ時ニ多少ノ變更アリシハ免レサルヘシト雖トモ每當其開始ニ當テハ豫メ鐵道作業局長官ニ交渉シ左記検査手續ニ依リ施行セルモノニシテ大體ノ方針ハ之レニ準據セリ

瀛車検査手續

第一 検査係員ハ列車到着十分前ブラツトホームニ出揃ヒ居ルヘシ

列車ハ前中後ノ三部ニ分テ豫メ検査スル客車ノ擔當ヲ定メ置クヘシ

第二 列車到着シタルトキハ各擔當ノ客車ニ乗込ミ乗客ニ對シ検査係員タルコトヲ告ケ其健否ヲ問ヒタル上望診シ異狀アリト認メタル者アル時ハ假診察所ニ移シ診斷スハシ此場合ニ於テハ其患者ノ乗込ミ居タル客車番號ヲ取調ヘ置クヘシ

號ヲ取調ヘ置クヘシ

下車客ニ對シテハ改札口ニ於テ望診シ疑ハシキモノアリタル時ハ假診察所ニ移シ診斷スヘシ

第三 前條ノ診斷ヲ了ヘ「ペスト」患者又ハ疑似症患者ト確診シタル時ハ瀛車検査規則第四條乃至第六條ニ依リ處置シ其異狀ナシト認メタル旅客ハ次ノ列車ニ乗込ミ出發セシムヘシ

第四 既ニ發車シタル後診斷ノ結果「ペスト」患者若ハ疑似症患者タルコト確定セシトキハ即時鐵道通信ニ依リ其客車ノ番號及患者ノ人員等臨時検査部長并ニ次ノ検査出張所及其中間ニアル各停車場ヘ通報スヘシ

第五 列車中ニ「ペスト」患者若ハ疑似患者アリタル時ハ左ノ各項ヲ調査シテ即時臨時検査部長ヘ報告スヘシ

- 一 患者ノ住所氏名年齢
- 二 出發地及發病月日時
- 三 同行者アリタルトキハ其住所氏名年齢
- 四 患者若ハ同行者途中下車セシコトアルトキハ其場所
- 五 患者若ハ同行者客車ヲ乗替シタル時ハ前乘車番號
- 六 汚染セシ物品ヲ他ヘ投棄セシ時ハ其場所
- 七 携帶品ノ種類

第六 「ペスト」患者又ハ疑似患者ト同車シタル乗客及携帶品ハ瀛車検査規則第四條ニ依リ充分ナル消毒ヲ行ヒタル上行先地ヘ出發セシメ同時ニ到着地ノ所轄警察署ヘ電報スヘシ

第七 前條ノ消毒ヲ要スル場合ニ於テハ別ニ定ムル所ノ用紙ニ乗客ノ氏名等ヲ記入シ検査官若ハ検査委員ノ捺印シタル證票ヲ交付シ之ヲ携帶シテ消毒所ニ至ラシメ消毒所ニ於テハ之ヲ査閲シ明治三十年内務省令第十三號第十一條ニ定ムル消毒方法ヲ施行シタル上其終了ノ日時ヲ記入シ検査官若ハ検査委員認印シテ各本人ニ交付シ停車場ニ歸ラシムヘシ

第八 停車中検査ヲ終了スルコト能ハサル場合ハ勿論終了シタル時ト雖トモ山北ヨリハ大船驛大船ヨリハ川崎第三章第十二項 瀛車并ニ船舶検査

第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

四百二十八

驛マテ検査官若ハ検査委員ノ醫師巡查各一名ヲ乗込マシメ途中各列車ヲ通シテ検査スヘシ
前項ノ場合ニ於テ「ベスト」患者若ハ疑似患者ヲ発見シタル時ハ最近ノ患者收容ノ設備アル地ニ下車シテ傳染病院若ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

第九 検査出張所ニハ日誌ヲ備ヘ置キ取扱タル事故ハ細大洩レナク之ニ記載シ一週間毎ニ臨時検査部長ニ報告スヘシ

但シ事ノ重要ニ涉ルモノハ其時々之ヲ報告スヘシ

瀛車及船舶検査廢止後ニ於ケル注意

本縣ニ於ケル「ベスト」病モ明治三十五年十一月以降ハ一時小康ノ状態ヲ呈シ爲メニ瀛車及船舶ノ検査ヲ廢止セリト雖トモ翌三十六年五月更ニ第二回ノ流行アルニ際シ或ハ海陸ノ便ニ依リ病毒ノ他地方ニ出シコトヲ慮リ特ニ横濱、平沼、神奈川三停車場及水上警察署ニ醫師ヲ派遣シテ横濱ヨリ他ニ出ツル旅客ニ對シ常ニ「ベスト」病者ノ有無ヲ監査セシメタリ第三、四、回ノ流行ニハ之レ等ノ瀛車検査ハ多數ノ人員ヲ要スルニ比シ其効力少キヲ以テ之ヲ行ハサリキ

第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

明治二十九年以來「ベスト」病毒ニ汚染シ又ハ其疑アル船舶ヨリ陸揚シタル貨物及有病地ヨリ入港シタル特別ノ貨物(棉花、米等)又ハ病毒附着ノ疑アル貨物ヲ收藏スル倉庫ニ對シテハ必要ニ應シテ除鼠消毒搬出禁止等之レヲ取締ヲ行ヒ來リシガ明治三十七年二月検査醫及監吏ヲシテ市内ノ各倉庫ニ就キ庫内塵芥ノ取扱、庫内ノ掃除鼠族ノ有無除鼠ノ狀況ヲ巡視セシメタル成績ヲ列記スレハ

第一 構造ニ依ル區別

| | |
|------|------|
| 石 造 | 百二十棟 |
| 煉瓦 造 | 八十棟 |
| 土 藏 | 十九棟 |

| | |
|--------|--------|
| 亞鉛張板 藏 | 十二棟 |
| 合計 | 二百三十九棟 |

第二 在庫品ニ依ル區別

| | |
|-------|-------|
| 一 輸入品 | |
| 米 穀 | 三戸前 |
| 雜 穀 | 五戸前 |
| 米利堅粉 | 十二戸前 |
| 砂 糖 | 十三戸前 |
| 棉 花 | 四戸前 |
| 洋食品 | 十二戸前 |
| 其他雜品 | 百十一戸前 |
| 合計 | 百六十戸前 |

一 内地品

| | |
|-------------------|-----|
| 米 穀 | 六戸前 |
| 雜 穀 | 七戸前 |
| 海產物 | 六戸前 |
| 繭 屑 | 三戸前 |
| 生 絲 | 五戸前 |
| 食料品 | 五戸前 |
| 其他雜品 | 二戸前 |
| 第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒 | |

第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

四百三十

合計 九十九戸前

以上ノ倉庫ニシテ其内

- 一 鼠族驅除ノ設備アルモノ(捕鼠器又ハ飼猫)三十一戸前
 - 一 鼠族驅除ノ設備ナキモノ二百二十八戸前
 - 一 庫内ニ鼠糞ヲ認メタルモノ六十二戸前
 - 一 庫内ニ鼠糞ヲ認メサルモノ百九十七戸前
- 倉庫棟數ト戸前數ト符合セサルハ一棟ヲ數戸前ニ區劃シ且ツ内容品ニ異同アリシニ由ル而シテ其内容品目ハ多種多様ナルヲ以テ主トシテ鼠族ニ關係アル品類ノミヲ掲ケ其他ハ雜品トシテ總括セリ

明治三十九年三月縣令第十四號ヲ以テ倉庫取締規則ヲ發布シ倉庫業者、運送業、問屋、工場、製造所ニ於テ使用スル倉庫(納屋、物置)ニ於ケル棉花、穀類、及粉類、落花生、豆粕其他榨粕、毛羽、皮革、屑繭、襪襪類、古麻布、古敷物、古俵、古袋類ノ收藏物ノ限定及倉庫構造ノ制限、除鼠ノ方法ヲ規定シタリ當時橫濱市倉庫現在數ハ左ノ如シ

倉庫 數 三百〇九棟
 數 六百五十九戸前
(二萬九千五百七十四坪餘)

以上ノ倉庫ニシテ其構造ノ縣令ニ適合セサルモノハ向三箇年以内ニ改築又ハ修繕スヘキ猶豫ヲ與ヘタリシガ本則實施ノ際此規定ニ合格シタル倉庫ハ

倉庫會社所有 二十九棟
 數 百九十六戸前
(五千五百二坪餘)

ニシテ個人所有ノモノハ一トシテ該則ニ適シタルモノナカリキ

明治四十年六月二十日縣令第六十八號ヲ以テ從來ノ倉庫取締規則ノ一部ヲ改正シ所有者又ハ管理者ニ對シ捕鼠器ノ配置ヲ命シ同月二十四日更ニ縣令ヲ以テ倉庫内ノ塵芥掃寄物ハ之ヲ燒棄スルカ又ハ一定ノ消毒ヲ經ルニアラサレハ構外ニ搬出スルコトヲ禁シタリ此掃寄物中ニハ往々有價物ヲ存シ之ヲ蒐集シ販賣セルモノアリシ爲メ之レニ依リ「ペスト」病毒ヲ散蔓スルノ危險大ナリシヲ以テナリ

明治四十一年六月以來一般倉庫ニ對シテハ倉庫取締規則ニ依リ毎年四月定期除鼠の清潔法ヲ勵行セシモ時々「ペスト」病毒ヲ齎シ來ル外國輸入貨物ニ最モ關係深キ稅關倉庫、郵船會社倉庫、中央倉庫ニ對シテハ特別ノ方法ヲ講セサル可ラサルガ故ニ先ツ稅關倉庫ニ對シテハ臨時消毒の清潔法ヲ行ヒ郵船會社倉庫ニハ捕鼠器配置ノ外硫磺燻蒸ニヨリ亞硫酸瓦斯除鼠法ヲ施行セリ中央倉庫會社ノ倉庫ニ至リテハ已ニ卷首總說ニモ記述セル如ク其數百二十棟四百十六戸前ニシテ其建坪二萬千八百餘坪ニ達シ在荷山積之レガ實施ニ依リテ或ハ在倉庫ノ毀損ヲ恐レ或ハ費用ノ嵩ムヲ憂ヒ會社ハ容易ニ之レヲ肯セヌ爲メニ多大ノ困難ヲ感セシモ其費用ノ三分ノ一ヲ橫濱市ニテ補助スルコト、シ終ニ之レヲ勵行シ輸入米穀及豆粕類ニ對シテハ「フオルマリン」消毒ヲ行ヒ在庫品稍々少ナキ倉庫ハ在荷品ヲ移動セシメ其狀況ニヨリテ石炭酸消毒又ハ燻硫除鼠法ヲ行ヒ又蔗糖、穀粉ノ如キ同上ノ方法ヲ施行シ難キモノニ對シテハ一酸化炭素瓦斯除鼠法ヲ行ヒ後更ニ清潔法ヲ施行セシメタリ

明治四十一年ヨリ橫濱市内諸所ニ「ペスト」鼠ヲ發生シ終ニ同四十二年五月ニ至リ「ペスト」患者ヲ發生セシヲ以テ同年六月再ヒ倉庫在荷品ニ對シテ臨時除鼠及消毒の清潔法ヲ勵行セリ其成績左表ノ如シ

| 藥品別 | 所有主別 | | 會社倉庫 | | 個人倉庫 | | 合計 | |
|----------|------|-----|------|----|------|-----|------|------|
| | 棟數 | 戸前數 | 坪數 | 坪數 | 棟數 | 戸前數 | 坪數 | 坪數 |
| 硫磺燻蒸 | 二九 | 二九 | 二六八七 | | | | 二九 | 二六八七 |
| フオルマリン消毒 | 二三 | 二三 | 一〇四五 | | | 二三 | 一〇四五 | |
| 合計 | 五二 | 五二 | 三七三三 | | | 五二 | 三七三三 | |

第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

四百三十一

第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

明治四十二年

四百三十二

| 藥品別 | 所有主別 | | 會社倉庫 | | 個人倉庫 | | 合計 |
|----------|------|-----|------|----|------|-----|-----|
| | 棟數 | 戸前數 | 坪數 | 坪數 | 坪數 | 坪數 | |
| 硫黄燻蒸 | 三 | 一六 | 九三九 | 四〇 | 五 | 六〇六 | 七五 |
| フォルマリン消毒 | 一 | 一 | 九三九 | 四九 | 四九 | 二〇九 | 四九 |
| 合計 | 四 | 一七 | 一八七八 | 八九 | 一〇五 | 二六五 | 二三四 |

倉庫取締規則施行ノ猶豫期限ハ明治四十二年四月三十日ニシテ其當時検査ヲ行ヒタル結果左ノ如シ取締規則實施以來改造又ハ修理ヲ加ヘ之レニ適合スルニ至リタルモノ

倉庫會社倉庫 四十六棟
 百四十二戸前
 一萬四千五百六十一坪

個人所有ノ倉庫 百六十八棟
 百七十五戸前
 三千〇八十坪

改造ヲ怠リ物品收藏ニ不適當ト認メタルモノ

倉庫會社倉庫 五十六棟
 百六十八戸前
 一萬八千六百九十七坪

個人所有ノ倉庫 百二十八棟
 二百九十五戸前
 五千三百七十七坪

當時構造不完全ニシテ到底改築又ハ修繕ヲ施スモ本則ニ適合スヘキ見込ナキ爲メ其使用ヲ停止シタルモノハ

倉庫會社倉庫 二十六棟
 四千百三十五坪

個人所有ノ倉庫 六十六棟
 百二十四戸前
 三千二百九十七坪

明治四十二年四月以後新タニ建設シタル倉庫ハ左ノ如シ

倉庫會社 所有ナシ

個人所有ノ倉庫 四十三棟
 百三十九戸前
 五千三百八十三坪

倉庫取締規則ノ勵行ハ船塵取締、屍體檢案、除鼠ノ獎勵及鏡檢ト相俟ツテ「ペスト」豫防上緊切ノコトナルヲ以テ明治四十二年六月ヨリ絶ヘス監吏ヲシテ各倉庫ヲ巡視セシメ之レガ取締ヲ勵行セリ其成績左表ノ如シ

明治四十二年 自一月至十二月 取締成績表

第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

四百三十三

第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

四百三十四

| 條 項 | 伊勢佐木町署 | 戸部署 | 神奈川署 | 加賀町署 | 壽町署 | 山手本町署 | 合 計 |
|----------------------|--------|-----|------|------|-----|-------|-----|
| 倉庫ノ構造制限ニ適セサルモノ | 四〇 | 一一 | 二〇 | 七二 | 三 | 一一 | 一五八 |
| 猶豫期間内ニ改築又ハ修理セサルモノ | 三 | | 一 | 一九 | | | 二三 |
| 收蔵物品ノ廢止ヲ屈出サルモノ | | | | 五四 | 七 | 一三 | 一九七 |
| 規定ノ捕鼠器ヲ設備セサルモノ | 五四 | 三五 | 二九 | 五四 | 一二 | 二 | 八三 |
| 規定ノ帳簿ヲ備ヘ置カサルモノ | 一一 | 五八 | | | 一二 | | 八三 |
| 届出ナキ倉庫、規定ノ物品ヲ收蔵シタルモノ | 一 | | | 二四 | 三四 | | 二五 |
| 消毒未済ノ塵芥ヲ搬出セムトスルモノ | 九七 | 七六 | 四六 | 六〇 | 六五 | 二 | 三二四 |
| 合 計 | 二〇六 | 一八〇 | 九六 | 二二九 | 六八 | 三七 | 八一六 |
| 規則違反告發 | | | | | | | |
| 同上 督促 | 三 | 三 | | 一 | 三 | | 九 |
| 同上 說 諭 | 二〇三 | 一七七 | 九六 | 二二八 | 六五 | 三七 | 八〇六 |

横濱市ニ於ケル四十二年十二月現在ノ倉庫ハ二百七十九棟六百五十二戸前建坪二萬八千五百二十六坪ニシテ其細別ハ左ノ如シ

倉庫會社倉庫 六十七棟
 三百三十八戸前
 二萬六千六百三十三坪

個人所有ノ倉庫 三百四十二棟
 八千四百六十三坪

明治四十一年、二年ニ於ケル市内一般ノ倉庫除鼠成績ヲ擧クレハ
 明治四十一年横濱市倉庫除鼠成績表

| 種別 | 月別 | 棟 數 | 戸前數 | 坪 數 | 捕鼠器 設置數 | 捕鼠數 |
|---------|-----|------|-------|--------|------------|-----|
| 個人所有ノ倉庫 | 一月 | 七六 | 一、九二五 | 四九、五三二 | 四六、九七七 | 一六三 |
| | 二月 | 六九五 | 一、四三七 | 四三、三六一 | 四三、九六六 | 三三九 |
| | 三月 | 七六九 | 一、九二八 | 五、一三三 | 七、六五五 | 三五六 |
| | 四月 | 七六八 | 一、九七 | 五、二二二 | 一〇、七五五 | 四七〇 |
| | 五月 | 七六七 | 一、九六 | 五、三三三 | 一三、六五五 | 四三二 |
| | 六月 | 七六四 | 一、九七六 | 七、九三〇 | 一〇、八三三 | 三九五 |
| | 七月 | 七六四 | 一、九七六 | 八、九三〇 | 九、〇六一 | 五九 |
| | 八月 | 七六七 | 一、九二 | 五、四二〇 | 七、九三三 | 七七 |
| | 九月 | 七六八 | 一、九三二 | 五、四四〇 | 六、四四八 | 四九九 |
| | 十月 | 八三二 | 二、〇九四 | 六、五九 | 七、五七七 | 六〇五 |
| | 十一月 | 三九七 | 一、〇四 | 六、三三〇 | 五、九〇二 | 五〇七 |
| | 十二月 | 三九九 | 一、〇六 | 三、三三九 | 一、三三四 | 四七 |
| 計 | | 八五四七 | 二、八九三 | 七〇、一九三 | 一〇八、九八五 | 五四七 |

明治四十二年横濱市内倉庫除鼠成績表

| 種別 | 月別 | 棟 數 | 戸前數 | 坪 數 | 捕鼠器 設置數 | 捕鼠數 |
|--------|-----|------|-------|--------|------------|-----|
| 倉庫會社倉庫 | 一月 | 二六〇 | 六、六一 | 四八、八〇五 | 七、八〇八 | 四〇〇 |
| | 二月 | 二六八 | 六〇五 | 四九、五三二 | 一四、三五〇 | 四四 |
| | 三月 | 二九八 | 六三三 | 五、四九五 | 八、一八八 | 六七六 |
| | 四月 | 二七六 | 五八二 | 五、七三三 | 一〇、一八〇 | 七五 |
| | 五月 | 三〇七 | 五五七 | 五、〇七五 | 七、三三五 | 六四 |
| | 六月 | 二四九 | 五五七 | 二、五三九 | 三、七九六 | 六四 |
| | 七月 | 二九二 | 六六 | 二、八二五 | 一〇、六一 | 六四 |
| | 八月 | 二八〇 | 六五七 | 二、八〇〇 | 二、一九八 | 四九 |
| | 九月 | 二四九 | 五九 | 二、四〇〇 | 八、一九〇 | 五一 |
| | 十月 | 二五三 | 五五八 | 二、五三八 | 三、六七六 | 五〇六 |
| | 十一月 | 二六〇 | 六八 | 一、九七三 | 八、三二 | 五〇 |
| | 十二月 | 二六六 | 八〇二 | 六、七五〇 | 八、三三 | 五五 |
| 計 | | 三、二七 | 七、五四六 | 四、六三九 | 一五、〇三 | 六八六 |

第三章第十三項 倉庫取締及除鼠消毒

四百三十五